

人生は、いつだってこれから。



あなたに日々を生き抜く勇気を贈ります

# くじけないで

八千草薫 武田鉄矢

伊藤蘭 / 檀れい 芦田愛菜 上地雄輔 ビュール瀧 鈴木瑞穂

原作：柴田トヨ「くじけないで」「百歳」(飛鳥新社刊) 主題歌：由紀さおり「わたしのうた」(EMI Records Japan)

監督・脚本：深川栄洋

企画：アロマエース 橋口一哉 プロデューサー：古田直子 浅岡直人 撮影：石井浩一 美術：松本知恵 照明：椎原敦史 音楽：富貴晴美 録音：林大輔 編集：坂東直哉 装飾：藤田徹 吉村昌悟 スタジオター：川野恵美  
音楽プロデューサー：小野寺重之 助監督：菅原丈雄 制作担当：相良 晶 ラインプロデューサー：編貫谷公彦 本編題字：荒木経惟 制作プロダクション：松竹撮影所 AOI Pro. 制作協力：松竹映像センター ナリゲナルサウンドトラック：SHOCHIKU RECORDS  
製作：松竹 / ビーエスエフ / AOI Pro. / 産経新聞社 / スリーゴッドラック / トライサム / フロインクォッシュ / 博報堂 / 東海テレビ放送 ©2013「くじけないで」製作委員会 配給：松竹

11月16日(土)ロードショー

[www.kujikenai.de](http://www.kujikenai.de)

90歳を過ぎてデビューし、200万部のベストセラーとなった詩人、柴田トヨ。  
激動の時代を生きたひとりの女性の、感動の実話。

# 明治から平成までを生き抜いたひとりの女性が 90歳を過ぎてから詩を書き始め、 その言葉は多くの人を勇気づけた——。



一人暮らしをしていたトヨは、ある時息子に勧められて詩を書き始める。

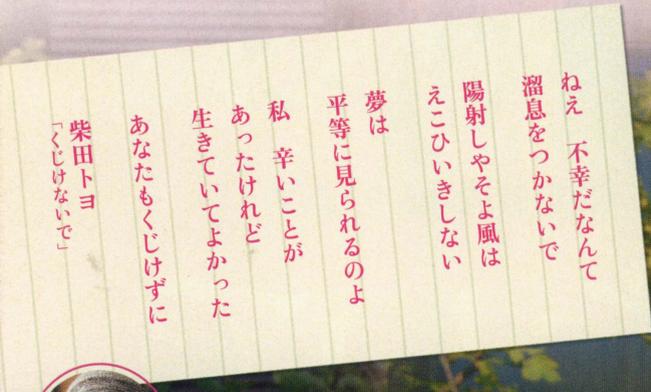
日々の暮らし、季節の移り変わり。自らの老いを見つめるユーモラスな視線や懐かしい少女時代への追憶。

一つ一つ言葉に置き換えていく中で、やがて彼女は明治から平成までを  
駆け抜けてきた自分の思い出を振り返っていく…。



200万部を越えたベストセラー詩集の作者となった実在の詩人・柴田トヨの半生と家族のドラマを描いた感動作が誕生した。トヨを演じるのは日本映画界に欠かせない存在として観客を魅了してきた、八千草薫。また、トヨに詩作を勧める息子・健一を武田鉄矢、彼を支える妻・静子を伊藤蘭が演じ、さらに若かりし日のトヨを檀れい、幼少期を芦田愛菜が演じ、主演の八千草薫をはじめ3世代を代表する女優陣の豪華リレーも実現した。そして監督は『60歳のラブレター』『神様のカルテ』などヒット作を生み出してきた人気監督・深川栄洋。

ベストセラーの理由は、彼女の人生にあった——。その詩のように温かく、世代を超えて共感し、心に一筋の光を投げかけてくれる感動の物語。



柴田トヨ  
「くじけないで」

ねえ 不幸だなんて  
溜息をつかないで  
陽射しやそよ風は  
えこひいきしない  
夢は  
平等に見られるのよ  
私 辛いことが  
あったけれど  
生きていてよかった  
あなたもくじけずに

柴田トヨ

1911(明治44)年、栃木県に生まれる。裕福な家の一人娘だったが幼くして家が傾き、奉公に出て家計を支えるなど苦労を重ねる。戦火が激しさを増していた1944年、33歳で結婚。翌年、長男の健一を授かる。1992年に夫と死別し、ひとり暮らしが始まる。90歳を過ぎてから健一に勧められて詩を書きはじめ、新聞の文芸欄に投稿するようになる。2009年、詩集「くじけないで」を自費出版。翌年、飛鳥新社より拡充版が刊行。同年、韓国にて翻訳版が発売される。「くじけないで」は詩集としては極めて異例の168万部を突破し、2011年に発売の第2詩集「百歳」と合わせ、累計200万部を超えるベストセラーとなる。海外でも翻訳され、韓国、台湾、中国、イタリヤ、オランダ、ドイツ、スペイン、イギリスといった国々で出版されている。その言葉で多くの人を勇気づけながら、2013年1月、101歳で天国へと旅立った。



©柴田トヨ / 飛鳥新社



## 11月16日(土)全国ロードショー

くじけないで特製 一筆箋レターセット付 前売鑑賞券  
絶賛発売中 一般券:¥1,300(税込)

●前売券1枚につき、1つ付いてきます。●数量限定。なくなり次第終了します。●一部劇場を除きます。

